

学校だより（前期学校アンケート結果号）

平成30年 9月11日
京都市明徳小学校
校長 岡本 雅文
TEL 701-0111

前期学校アンケート集計結果概要

7月に行いました学校評価の集計結果および分析が整いましたので、ご報告いたします。

今年度は、評価項目を一部追加するとともに、質問項目の表現方法を変更しました。よって、昨年度までと同じ観点であっても、表現方法が変わっているので単純に比較することはできません。ただし、評価項目はほとんど同じですので、結果からの分析に関わっては昨年度までの傾向と照らし合わせができるかと思います。また、保護者・児童・教職員の3者それぞれの視点から、確かな学力（知）・豊かな心（徳）・健やかな体（体）の3つの観点で児童や保護者、教職員、それぞれの取組の姿を確かめられるように引き続きしています。したがって、昨年度同様、3つの観点から、児童の実態を明らかにし、本校の教育の取組に生かしていきたいと考えています。

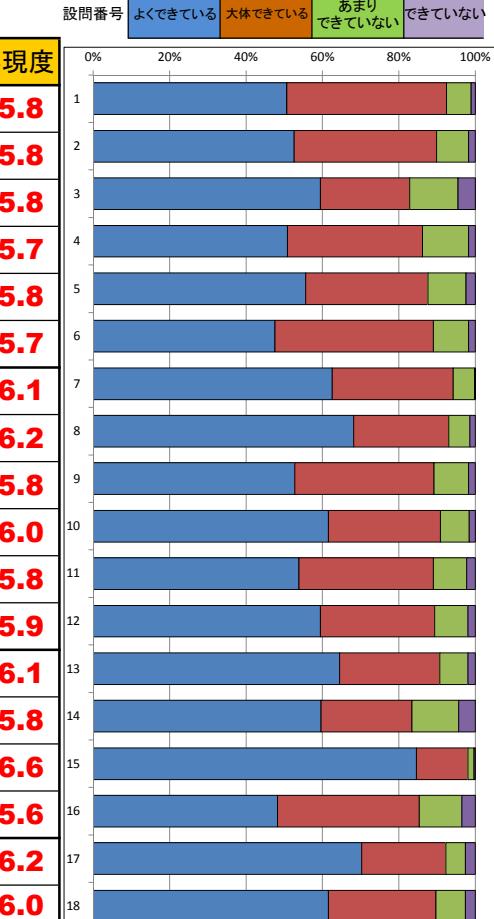
今回、保護者の皆様からは、466枚の解答をいただきました。お忙しい中、たくさんの方々にご協力をいただき、誠にありがとうございます。記述欄においても多くのお言葉を頂戴しました。概ね高評価をいただいています。思われますが、まだまだ不十分な点も見受けられます。後ほど、記述いただいたご意見についてご報告いたします。

【資料1】は、児童の実現度を表しています。実現度評価は、すべて5を超えている結果から概ね満足できる状況です。質問項目の文言が少し変わっていますので、単純比較ができませんが、13項目で昨年度の後期よりも実現度が上がっています。7つの項目「7」「8」「10」「13」「15」「17」「18」で実現度が6を超えてます。中でも、「18 先生に気軽に話しかけることができる」は、昨年度の後期よりも0.6ポイントも上がりました。児童と教職員との関係が密になってきているとも考えられ、うれしい評価結果でもありました。また、「徳 豊かな心 7～12」に関わる実現の上昇が見受けられます。本校が大切にしている取組の一つに人権教育があります。毎月テーマを設定して、自らの思いや仲間の考え方を交流し、よりよい社会に向けて自分ができることを考えています。また、道徳の学習を充実させることや効果的な取組にむけて、研究を進めていることが、一定の成果となって表現されてきているのではないかととらえています。話す・書くといった視点を授業の中で積極的に取り入れていることや授業改善を学校全体で取り組んでいることとつながってきています。

今年度新たに追加した「16 早寝早起きなど1日の生活リズムを大切にすごしている」という点については、最も実現度が低い結果となりました。また、「5 宿題や家庭学習に進んで取り組んでいる」という主体的な学習に関わる項目は、文言に「進んで」「家庭学習」という言葉を入れてことで、0.5ポイントも実現度が下がる結果となりました。家庭学習の充実という視点が、一つの課題であることが明確にしめされたと感じています。どちらも家庭との連携に関わる内容かと思います。子どもがよりよく生きられるように、主体性をますます育んでいくように、学校と家庭との連携を充実させていきたいと思います。また、子どもたちの学習意欲が高まるような取組を継続することで、ますます、実現度は高まるとともに学習の成果は出てくるのではないかと感じています。学力定着テストやジョイントプログラムの結果なども分析をしながら、今後の取組を充実させていきたいと考えます。

【資料1】H30 前期児童の実現度

	児童	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	実現度	設問番号			
							よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない
知	めあてにむかってすんで学習に取り組んでいる。	290	239	37	6	5.8				
	わかるまでねばり強く学習に取り組んでいる。	301	213	48	10	5.8				
	学校や家で本を読んでいる。	340	134	72	26	5.8				
	自分の考えを話したり書いたりして相手に伝えている。	291	202	69	10	5.7				
	宿題や家庭学習にすすんで取り組んでいる。	318	183	57	14	5.8				
	先生や友達の話をしっかりと聞き、よい姿勢や態度で学習に取り組んでいる。	272	237	53	10	5.7				
徳	学校や家庭のルールを守っている。	358	181	32	1	6.1				
	自分からすすんで、あいさつをしている。	390	142	32	8	6.2				
	すすんでスリッパやはきものをそろえている。	302	208	52	10	5.8				
	人の嫌がることをしたり、言ったりしていない。	352	168	43	9	6.0				
	言葉づかいに気をつけている。	308	201	50	13	5.8				
	苦手なことにも挑戦しようとしている。	340	171	50	11	5.9				
体	給食を好き嫌いせず、食べている。	369	150	42	11	6.1				
	外遊びなど、すすんで体を動かしている。	341	136	70	25	5.8				
	交通ルールを守って安全に登下校している。	484	77	9	2	6.6				
	早寝早起きなど1日の生活リズムを大切にすごしている。	276	212	64	20	5.6				
独自	楽しく登校している。	402	126	29	15	6.2				
	先生に、気軽に話しかけることができる。	352	161	44	15	6.0				



学校だより（前期学校アンケート結果号）

【資料2】は、保護者・児童・教職員の実現度を比較したものです。

質問項目の文言を、保護者や教職員も変えています。各自が、子どもに対してどのような関わりができるのかを確認することで、児童の実現度との関連を見ることができると考え、変更しました。また、学校アンケートの機会を通じて、教職員はもちろん、保護者の方も子どもとのかかわりや学校とのかかわりについて振り返っていただける機会にしていただければという思いも含めての変更としています。

アンケート結果は、今までのよう、児童の実現度が最も高く、それに対して、保護者・教職員の実現度は厳しい評価を下しています。今回、保護者と教職員の実現度の傾向が似通ってきており、その傾向が見受けられました。同じような視点で子どもと関わっていただいているのではないかととらえました。子どもの姿を保護者と教職員は共有化できているのではないかと考えています。

項目の7～12は、「徳 豊かな心」に関する項目です。保護者の実現度が高まっています。質問項目の文言が異なるので、単純比較はできませんが、実現度が高まっていることは、うれしいことです。昨年度から、道徳を核として、授業の取組を見直していることや、人権教育の充実に向けて取り組んでいることがつながってきているのではないかと捉えています。

保護者の方のアンケートの実現度は、今まで項目間の差が大きく開いていましたが、今回はその開きが狭まっています。逆に、教職員の実現度の方が項目ごとによる違いが大きくなっています。自分の取組の成果を自己評価するような質問項目の文言になっていますので、自らを厳しく見つめているのか、児童の能力は今後の取組次第でますます伸ばしていくことができるという思いを抱いているかもしれません。結果内容にかかわっては、校内で共通理解して、今後の本校の取組にいかしていきたいと考えています。

【資料3】は保護者・教職員の実現度に児童の実現度を高学年と低学年に分けて一覧にしたものです。

児童の高学年と低学年を比べると、すべての項目において、低学年の方が高い実現度です。特に、1～6の項目（「知確かな学力」）に関しては、どの項目も同じような実現度の差となっています。学年が上がるにつれて、客観的に判断できる力がついてくること、学習に対する困りを感じはじめていると思われます。授業力の向上や家庭学習との連携など充実を図っていくことで、高めていきたいと思います。

【資料2】三者の実現度比較

□… 知 □… 徳 □… 体 □… 独自の取組等

【保護者】	【児童】	【教職員】
6.6	安全指導	6.6
6.5		6.5
6.4		6.4
6.3		6.3
6.2		6.2
6.1 登校意欲	登校意欲 挨拶の習慣 ルールの遵守 バランスのよい食事 思いやりの心 学校との信頼関係 挑戦する心 意欲的な学習 学習への粘り 読書の習慣 話す・書く 学習規律 生活リズム	6.1
6.0		6.0
5.9		5.9
5.8		5.8
5.7		5.7
5.6 学校との連携		5.6
5.5 安全指導		5.5
5.4		5.4
5.3 ルールの遵守 思いやりの心		5.3
5.2 挨拶の習慣 生活リズム		
5.1		
5.0 学校との信頼関係		
4.9 話す・書く 主体的な学習 バランスのよい食事		
4.8 意欲的な学習 運動意欲	生活リズム	5.2
4.7 学習規律 学習への粘り 言葉遣い		5.1
4.6 挑戦する心		5.0
4.5		4.9
4.4 活動参加		4.8
4.3 読書の習慣		4.7
4.2		4.6
4.1 地域連携		4.5
4.0 整理整頓		4.4
3.9		4.3
3.8		4.2
3.7		4.1
3.6		4.0
3.5		3.9
3.4		3.8
3.3		3.7
【保護者】	【児童】	【教職員】

【資料3】

H30 3者前期実現度比較

1	知	意欲的な学習
2	知	学習への粘り
3	知	読書の習慣
4	知	話す・聞く
5	知	主体的な学習
6	知	学習規律
7	徳	ルールの遵守
8	徳	挨拶の習慣
9	徳	整理整頓
10	徳	思いやりの心
11	徳	言葉づかい
12	徳	挑戦する心
13	体	バランスのよい食事
14	体	運動意欲
15	体	安全指導
16	体	生活リズム
17	開	登校意欲
18	開	学校との信頼関係
19	開	学校との連携
20	開	地域連携
21	開	活動参加

保護者	教職員	児童	低学年	高学年
4.8	5.1	5.8	6.2	5.5
4.7	4.5	5.8	6.2	5.4
4.3	3.7	5.8	6.1	5.4
4.9	4.8	5.7	6.0	5.4
4.9	4.1	5.8	6.1	5.5
4.7	4.8	5.7	6.0	5.4
5.3	5.4	6.1	6.4	5.9
5.2	5.1	6.2	6.3	6.1
4	4.9	5.8	6.2	5.4
5.3	5.2	6.0	6.1	5.9
4.7	4.7	5.8	6.2	5.4
4.6	5	5.9	6.3	5.5
4.9	5.2	6.1	6.3	5.8
4.8	4.1	5.8	6.2	5.4
5.5	5.5	6.6	6.8	6.5
5.2	4.8	5.6	5.8	5.4
6.1	5.1	6.2	6.4	6.0
5	4.9	6.0	6.3	5.7
5.6	4.1			
4.1	4.5			
4.4	3.3			

【資料4】

H30 前期保護者・教職員ニーズ度比較

			保護者 重要度	保護者 実現度	保護者 ニーズ度	教職員 重要度	教職員 実現度	教職員 ニーズ度
1 知	意欲的な学習	子どもがめあてにむかって進んで学習に取り組めるように見守り、励ましている。	6.6	4.8	21.1	6.9	5.1	20
2 知	学習への粘り	子どもがねばり強く学習に取り組めるよう見守り、励ましている。	6.6	4.7	21.8	6.9	4.5	24.2
3 知	読書の習慣	子どもが家で本を読むよう勧めている。	6.1	4.3	22.6	6.4	3.7	27.5
4 知	話す・聞く	子どもが自分の考えを表現できるよう励ましたり、伝えてきたことを受け止めたりしている。	6.7	4.9	20.8	6.6	4.8	21.1
5 知	主体的な学習	子どもが宿題や家庭学習に取り組むよう環境を整えている。	6.4	4.9	19.8	6.4	4.1	25
6 知	学習規律	子どもがよい姿勢や態度で学校の学習に取り組むようはたらきかけている。	6.5	4.7	21.5	6.7	4.8	21.4
7 徳	ルールの遵守	子どもが学校や家庭のルールを守るようはたらきかけている。	6.6	5.3	17.8	6.9	5.4	17.9
8 徳	挨拶の習慣	子どもに挨拶の習慣をつけられるように意識して取り組んでいる。	6.7	5.2	18.8	6.9	5.1	20
9 徳	整理整頓	子どもが履物をそろえるよう家庭でも気をつけている。	6.3	4	25.2	6.7	4.9	20.8
10 徳	思いやりの心	子どもが人の嫌がることをしたり言ったりしないように話している。	6.8	5.3	18.4	6.9	5.2	19.3
11 徳	言葉づかい	子どもがその場に応じた言葉づかいができるようはたらきかけている。	6.4	4.7	21.1	6.5	4.7	21.5
12 徳	挑戦する心	子どもが苦手なことにも挑戦できるよう励ましている。	6.3	4.6	21.4	6.6	5	19.8
13 体	バランスのよい食事	子どもが家庭で好き嫌いせずに食べるよう支援している。	6.1	4.9	18.9	6.2	5.2	17.4
14 体	運動意欲	子どもが体を動かして遊ぶよう勧めている。	6.2	4.8	19.8	6.3	4.1	24.6
15 体	安全指導	子どもが交通ルールを守ってすごせるようはたらきかけている。	6.8	5.5	17	6.9	5.5	17.3
16 体	生活リズム	子どもが早寝早起きなどリズムを整えて生活できるよう工夫している。	6.5	5.2	18.2	6.7	4.8	21.4
17 開	登校意欲	子どもは楽しく登校しようとしている。	6.8	6.1	12.9	6.9	5.1	20
18 開	学校との信頼関係	学校に気軽に相談できる。	6.5	5	19.5	6.7	4.9	20.8
19 開	学校との連携	学校だより・学級だより・ホームページなどで、学校の情報を得ることができます。	6.3	5.6	15.1	6.4	4.1	25
20 開	地域連携	地域の行事や教育活動に参加している。	5.6	4.1	21.8	6.4	4.5	22.4
21 開	活動参加	学校行事やPTA行事に参加している。	5.6	4.4	20.2	6.2	3.3	29.1

【資料4】では、保護者と教職員のニーズ度を比較しています。

25を超えるとニーズがあるとの判断でみると、保護者は、「9 子どもは履物をそろえるよう家庭でも気をつけています」にニーズがあります。これは、昨年度の学校アンケートでも、ニーズ度の高い項目でした。保護者の中では、整理整頓の意識をより高めるとともに、習慣化できるような継続した声掛けなどが必要なかもしれません。次は、「3 子どもが家で本を読むように勧めている」です。実現度が低いため、ニーズ度が高いという状況となっていますが、読書の習慣が定着できていないこととつながるのかもしれません。学校での図書館教育との連動を進めたいと思います。

教職員では、今回、4つの項目で25を超えました。中でも「3 子どもが家で本を読むように勧めている」（保護者質問文言）という項目のニーズ度は高くなっています。保護者のニーズ度とも関連しますので、読書習慣に関わっては、今後の重点項目として、取組の充実を図っていかなければならぬと考えています。また、「5 子どもが宿題や家庭学習に取り組むように環境を整えている」（保護者質問文言）という主体的な学習に関わる項目でのニーズ度も高くなっています。授業と家庭学習との連携の必要性を教職員も認識をしています。また、全国学力学習状況調査の質問項目からも、家庭学習の時間が少ないというデータがあります。与えられた課題を取組だけでなく、主体的にねらいや目的を持ち、計画立てて学習に取り組む姿勢を育んでいくことが大切であるという認識の表れと捉えています。校内で十分共有化し、家庭学習の充実に向けた取組を推進していきます。

★実現度・重要度の算出方法について

「実現度」「重要度」については、以下の方法で数値化をしております。

○それぞれの回答を以下のように数値化する

「よくできている・重要である」……7

「大体できている・やや重要である」……5

「あまりできていない・あまり重要でない」……3

「できていない・重要でない」……1

○それぞれの項目の総計を回答者数で割り、平均を出す。

●「無答」は、回答者数から除外し、別途分析する。

※「実現度」は、5を超えていると概ねできているととらえることができます。

★ニーズ度とは・・・

「重要度」「実現度」から「ニーズ度」（要求度）を以下の方法で算出することができます。

〔ニーズ度の算出方法〕 ニーズ度=重要度×（8-実現度）

○とても重要（7点）だが、できていない（1点）の場合

7×（8-1）=49 [ニーズ度の最大値]

○重要でない（1点）で、できている（7点）の場合

1×（8-7）=1 [ニーズ度の最小値]

○やや重要である（5点）が、あまりできていない（3点）の場合
る境界値)

5×（8-3）=25 [ニーズがあると判断す

1 平成30年度 重点評価項目

人とのつながりや心身の健康を大切にし、これからの中の社会を創りだす子どもの育成

○学力の向上（校内研究の充実・家庭学習の連携） ○自己管理能力の育成（健康教育の推進・運動機会の充実）

○心身の健康と規範意識の醸成（道徳、人権教育の充実・文化的経験の推進） ○開かれた学校の推進（家庭や地域の連携・伝統文化の充実）

2

分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	分析を踏まえた取組の改善
確かに学力	基礎基本の充実 書く力の育成	全国学力学習状況調査・ジョイントプログラムの結果 児童及び保護者、教職員アンケートの結果	・全国学力学習調査やジョイントプログラムの結果は、概ね満足できる結果となっているが、学年によってバラつきがあることと、学力の2極化が顕著になってきた。 ・平均を下回っていた学年の正答率が上がってきてている。 ・学習に対する評価は、児童の評価は概ね満足できる状況で大きな変化はないが、保護者と教職員が同じような認識になってきている。 ・話す書くや学習規律などの児童の評価は安定している。 ・話す聞く力の育成に向けた学校での取組が一定の成果となって表れている。 ・家庭学習の時間が短い傾向に大きな変化はない。与えられた宿題は確実に取り組んでいくが、学習時間が短く、自主勉強など自主的な取組の充実には至っていない。効果的な家庭学習や授業との連動に関わっては、まだまだ吟味する必要がある。	・昨年度から校内研究で、道徳を核とし、「話す・聞く力」そして「話し合える力」の育成に向けて授業の充実を進めてきたことが、大きな成果となって表れてきている。確かな学力に関わって、児童の姿が高まっている。さらに、教職員の授業改善やカリキュラムマネジメントを充実させていきたい。 ・児童の学力実態の把握を確実に行い、共有化を図り、目の前の児童の姿を基にした研究活動をますます推進していく。 ・子ども同士の交流の機会を、たてわり活動や児童朝会、委員会活動でも取り入れている成果がでてきている。また、通常授業の話し合いの力を高める取組が学校教育のあらゆる場面で取り入れ、推進されてきている。しかし、思いや考の発表のみになる傾向があるので、言葉のキャッチボールを意図的に取り入れ、聞く力を高め話す力の充実に取り組んでいく。 ・家庭学習の充実にむけて、家庭学習の取り組み方を学校として共有化し、発達段階に応じた取組の系統性を充実させていく。 ・読書の充実に向けては、意図的な取組が必要であると考えている。特に、図書館活用の充実を図っていく必要がある。読書週間の取組やブックトークなど工夫した本の紹介
	読書活動の充実	学習中の児童の「話す・聞く」態度の変容	・読書の習慣は一定の成果は見られるが、まだまだ、保護者や教職員と児童との認識の違いは大きい。低学年ほど貸出冊数が多いが、低学年の読書の習慣が高学年につながりにくいところが見られる。	
	読書活動の充実	図書の貸し出し数の変容		
豊かな心	規範意識の醸成	児童及び保護者、教職員アンケートの結果	・豊かな心に関わる評価項目の保護者の実現度が高まっている。また、教職員と保護者の実現度が同じような傾向となってきているので、子どもの姿を核にした情報共有や短期の目標を共有するなどの連携が充実し始めている。	・家庭訪問や保護者との面談など定期的に行い、児童の姿を共有化して取組を進める姿勢をますます充実させていく。
	クラマネ・いじめアンケートの回答状況		・あいさつに関して、自分から進んで取り組むことができている児童が増えてきた。保護者や教職員からも一定の評価が見られる。	・児童会活動やたてわり活動等の充実が子どもの変容にもつながっているので、引き続き活動内容を充実させたり、継続して取組を進めていきたい。
	あいさつやはきもの揃えなど児童の変容		・はきものなどは以前よりは、子ども自身が気づいてそろえている姿を見る機会は増えてきたが、まだまだ乱れことがある。 ・整理整頓などに対しては、子どもの実現度はあまり変化はないが、保護者の評価との隔たりは大きい。 ・ルールの遵守に関わる項目では、子どもも保護者も教職員も、3者の評価とも一定の成果は出てきている。3者の実現度の差も少なくなっている。 ・生徒指導上の細かな事案はまだまだ後を絶たない。いじめに関する事案も時にはあがるが、子どもも保護者もしっかりと対応している。	・系統性を意識した人権学習や道徳学習の取組の発展が、子どもの姿の変容につながっていると思われる。引き続き取組の継続と充実を図っていくとともに、本校の特質をより顕著化させた取組を模索していく。 ・生徒指導上の問題やいじめの事案は起こっている。できる限り見落としのない対応や組織として対応していくことで、大きな問題には発展しないように対応していく。
健やかな体	健康教育の推進	児童及び保護者、教職員アンケートの結果	・運動能力テストの結果から、依然女子の運動能力は低いが、男子の体力低下がみられる。 ・女子の体力は全国平均はもちろん、京都府平均より低いが、上昇傾向がみられるようになってきた。	・生活習慣アンケートなどの結果を活用し、学校全体の姿を教職員で共通理解を図り、生活の乱れを感じる児童には、大きな乱れになる前に保護者と連携を図りながら生活習慣の確立につなげていく。
		生活アンケートの結果	・何事も同じような傾向ではあるが、与えられたことはしっかりと取り組むが、自ら目的意識を持って活動する機会は少くない。 ・早寝早起きや朝食の喫食率などから安定した生活習慣の子どもが多いが、高学年になるにつれて、乱れてくる傾向にある。健康の大切さをつながりながら、継続した保健指導などで、健康維持増進にむけて取組を図っていきたい。	・委員会活動の取組がまだまだ充実できていない。児童の主体性を高め、自ら生活習慣の改善に向けて取り組めるような委員会活動の取組を考案していく。 ・たてわり遊びやロング休みの定期的な実施と、体育の時間での活動時間の充実など工夫することで、意図的に体を動かせる時間を設定する。
	体力の向上	運動能力テストの結果	・「交通ルールを守って安全に登校している」項目の児童も保護者も教職員も実現度が高い。しかし、子どもの姿をみていると、まだまだ地域やPTAの見守り活動があつてできているところがあり、見守り活動がない時や下校時、放課後など横着な行動をしていることがある。	・安全ノートの活用などを通して定期的に安全面への指導を続けるとともに、命の大切さについて考える時間も定期的に設定して行うことで、自らの命で自らで守ろうとする心情を高め、危機管理意識を養っていくとともに、どの場面でも同じような行動ができるように継続した指導を行う。
学校独自の取組	伝統文化教育の充実	総合的な学習の時間の取組	・明徳農園での活動を生活科や総合的な学習の時間の中で継続して行っている。地域の方々の協力により、充実した機会となっている。	・HPなどの情報発信を継続して続けていく。校門付近に設置した掲示板をもっと有効活用していく。
	地域との連携	運営協議会の方々の意見アンケート調査	・わきの山の取組については、活用方法も含めて検討する必要がある。	・教職員の顔が地域でも保護者にもわかるようにするために、地域の行事には、教職員も参加して、子どもの様子を確かめたり、地域との交流ができるようにする。
	開かれた学校づくり	HPや学級だよりに対する評価	・開かれた学校づくりにむけて、HPや学校だよりをもとに継続して配信していることが、ずいぶん定着してきた。HPで配信した内容や学校だよりの内容についてご意見や感想をいただく機会が増えてきた。	・わきの山にかかわっては、継続して整備を行うとともに、チマキザサの育成を推進しながら、学習の中にどのように位置づけられるのかを考え取組を行っていく。
	保幼小中連携	保幼小連絡会 小中連絡会 洛北のWAの取組	・学校運営協議会の方々に学校の取組に対してご支援いただき、充実した学校運営につながっている。 ・今年度も、地域との連携を大切に、2年生や4年生と地域のお年寄りとの交流を継続していく。 ・保幼小連絡会の開催や小中連携「洛北のWA」などの取組を継続するとともに充実させていく。	・明徳農園の取組に対して、各学年の取組を明確化し、系統立てた取組や畑の先生の系統的な連携を大切にしていく。学習課程の共有化や整理、申し送りなどの充実を図るよう、取組を可視化し、共有化できるように工夫する。 ・地域との交流の機会を、年間計画の中で位置付けるとともに、未永く取組ができるように内容や時間など検討していく。

平成30年度 学校アンケート 設問内容一覧

		子ども	保護者	教職員
1	知	意欲的な学習	めあてにむかってすすんで学習に取り組んでいる。	子どもがめあてにむかって進んで学習に取り組めるように見守り、励ましている。
2		学習への粘り	わかるまでねばり強く学習に取り組んでいる。	子どもがねばり強く学習に取り組めるよう見守り、励ましている。
3		読書の習慣	学校や家で本を読んでいる。	子どもが家で本を読むよう勧めている。
4		話す・聞く	自分の考えを話したり書いたりして相手に伝えている。	子どもが自分の考えを表現できるよう励ましたり、伝えてきたことを受け止めたりしている。
5		主体的な学習	宿題や家庭学習にすすんで取り組んでいる。	子どもが宿題や家庭学習に取り組むよう環境を整えている。
6		学習規律	先生や友達の話をしっかりと聞き、よい姿勢や態度で学習に取り組んでいる。	子どもがよい姿勢や態度で学校の学習に取り組むようはたらきかけている。
7	徳	ルールの遵守	学校や家庭のルールを守っている。	子どもが学校や家庭のルールを守るようはたらきかけている。
8		挨拶の習慣	自分からすすんで、あいさつをしている。	子どもに挨拶の習慣をつけられるように意識して取り組んでいる。
9		整理整頓	すすんでスリッパやはきものをそろえている。	子どもが履物をそろえるよう家庭でも気をつけている。
10		思いやりの心	人の嫌がることをしたり、言ったりしていない。	子どもが人の嫌がることをしたり言ったりしないように話している。
11		言葉づかい	言葉づかいに気をつけている。	子どもがその場に応じた言葉づかいができるようはたらきかけている。
12		挑戦する心	苦手なことにも挑戦しようとしている。	子どもが苦手なことにも挑戦できるよう励ましている。
13	体	バランスのよい食事	給食を好き嫌いせず、食べている。	子どもが家庭で好き嫌いせずに食べるよう支援している。
14		運動意欲	外遊びなど、すすんで体を動かしている。	子どもが体を動かして遊ぶよう勧めている。
15		安全指導	交通ルールを守って安全に登下校している。	子どもが交通ルールを守ってすごせるようはたらきかけている。
16		生活リズム	早寝早起きなど1日の生活リズムを大切にすごしている。	子どもが早寝早起きなどリズムを整えて生活できるよう工夫している。
17	開かれた学校づくり	登校意欲	楽しく登校している。	子どもは楽しく登校しようとしている。
18		学校との信頼関係	先生に、気軽に話しかけることができる。	学校に気軽に相談できる。
19		学校との連携		学校だより・学級だより・ホームページなどで、学校の情報を得ることができている。
20		地域連携		地域の行事や教育活動に参加している。
21		活動参加		学校行事やPTA行事に参加している。